

すてっぴ

時代をつくった女性たち

明治、大正、昭和と、女性の解放を求めて時代の因習と闘った女性たちは、様々な雑誌を発刊し、誌上で熱く議論しました。

男女共同参画センター図書・資料室にある復刻版の一部をご紹介します。



青鞥

(セイトウ)

日本最初の女性による文芸誌「青鞥」は、明治44年9月に創刊。発起人は、平塚らいてうと日本女子大学卒業生の仲間5人。誌名の命名者は、らいてうに女性だけの文芸雑誌創刊をすすめた生田長江。「ブルーストッキング」の訳語で、英国で進歩的な女性たちが青い靴下をはいていたことに由来します。創刊号を飾ったらいてうの「創刊の辞」と、与謝野晶子の「山の動く日来る」で始まる「そぞろごと」は、「女性解放」の宣言として女性たちから熱い支持を得、「新しい女」として社会に大きな反響を巻き起こしました。恋愛の自由、男女の平等、女性の労働等について大胆に主張し、文部省から「良妻賢母の理念にそぐわない」と何度も発禁処分を受けます。大正4年伊藤野枝に経営権を譲渡、大正5年無期休刊。全52冊発刊。



平塚らいてう

創刊の辞

元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のやうな蒼白い顔の月である。さて、ここに「青鞥」は初声を上げた。現代の日本の女性の頭脳と手によって始められた「青鞥」は初声を上げた。

〈抜粋〉



女人芸術

(ニョニンゲイジュツ)



長谷川時雨



輝ク

(カガヤク)

長谷川時雨によって創刊された女性文芸誌。昭和3年7月号から全48冊刊行。編集から執筆、読者のすべてを女性とし、女性作家・評論家の発掘・育成を目指す。林芙美子、円地文子、平林たい子など多くの作家を生み出し、林芙美子の「放浪記」は20回にわたり連載。戦争へ突き進む社会情勢の中、発禁処分を繰り返し資金難となり昭和7年廃刊。翌年、時雨が組織した「輝く会」機関誌として「輝ク」を創刊。死去までの9年間当時の女性文化人の活動拠点となりました。

編集後記

水無月とは瑞々しくも清らかな空ではないか。いたるところに生々の気はみちみなぎっている。だがなんと、いま全世界で、この日本の女性ほど健かにめざましい生育をとげつつあるものがあらうか？初夏のあした、ぼつぱいと潮が押しあげてくるやうに、おさへきれない若々しい力をためさうとしている同性のうめきをきくと、涙ぐましい勇躍を感じないではいられない。

〈抜粋〉

時代をうつす
広告を見るのも
楽しい



図書・資料室では、上記以外にも復刻版を所蔵しています。復刻版を開くと、時代を駆け抜けた女たちの息遣いが聞こえてきます。大胆に、したたかに、辛抱強く生きた女たち。彼女たちの悩みや苦しきは、現代社会でも共通点の多いことに驚かされます。

時代を拓いた女たち

くすもと

楠本イネ 文政十年(一八二七年)〜明治三六年(一九〇三年)



産科開業つかまつり候

楠本イネは、医師開業試験のなかった時代に、日本ではじめて西洋医学を修得した女医である。明治一八年に、荻野吟子が国家試験に合格し、「公許女医登録第一号」となるより一五年も前に、産科を開業している。イネは、「楠本イネ」よりも「シーボルトの娘イネ」といったほうがよく知られているだろう。

イネは、文政十年長崎に生まれた。父は、オランダ商館の医師として赴任してきたドイツ人医師フォン・シーボルト、母は「遊女」お滝。二歳の時に父は国外追放となってしまう。一人で娘を育てていたお滝は、やがて回漕業者俵屋時次郎と結婚。イネは、色白で青い目を持つ美しい娘に育った。女に学問は無用、まして女が医者になるなど考えられない時代だったが、イネは「自分は混血児であることを強く自覚し、学問を身につけ、父と同じ医者になろう」と決心する。

天保一一年(一八四〇年)、一三歳になったイネは、父シーボルトの弟子で、四国宇和島の二宮敬作のもとで医学の基礎を学ぶ。次第にイネは産科に興味を持つようになった。妊婦は、男の医師にみられることを恥じて診察を受けないために、手遅れになることが多かったのだ。五年後、産科の権威でシーボルトの弟子であった石井宗謙のもとで学んでいたイネを思わぬ出来事がおそった。宗謙に強引にいいよられ、妊娠してしまう。長崎に戻り娘を産んだイネは、再び二宮敬作のもとで、勉学に励む。ここで村田蔵六後の大村益次郎からオランダ語を学んだ。

二人の交流は長く続き、蔵六が襲撃されたとき、イネは病院で最期を看取ったという。明治三年、上京して築地で産院を開業。福沢諭吉の推挙により宮内省御用掛に任ぜられ、明治天皇の皇子の出産に立ち会うなど、イネの医師としての評判は高かった。が、明治八年に医業開業試験制度が定められ、国家試験に合格しないものは開業できなくなってしまう。イネは自分の年齢を考え受験をあきらめる。

長崎に戻り、産婆として開業していたイネは、娘と一緒に住むために再び上京する。明治三六年、幕末から明治への動乱の世に、混血児、未婚の母という境遇を乗り越え、誇り高く生きたイネは、七六歳の生涯を終えた。

【参考図書】「理系の扉を開いた日本の女性たち」「ふぉん・しいほるとの娘」ほか

知っていますか？エイズとHIV感染

エイズとは、英語の **Acquired Immuno Deficiency Syndrome** の頭文字をとったものです。日本語では「後天性免疫不全症候群」といい、HIV感染によって起こり、免疫力が弱くなり発病した状態をいいます。

HIV (ヒト免疫不全ウイルス) 感染、その後の無症候期

治療を受けずにおよそ10年

エイズ発症

免疫力の低下によりさまざまな疾患を発症

カンジダ症
ニューモシスティス肺炎
など

早期発見し、適切な医療を受けることで発病を遅らせたり、抑えることができます。

HIVの感染経路
性行為感染
母子感染
血液感染

平成22年新規感染者および新規患者数

- ◇ 国内HIV感染者 1075件 (前年より54件増加し、過去3位)
- ◇ 国内エイズ患者 469件 (過去最多)
- ◇ 都内エイズ患者 107件 (過去最多)

エイズは、誰でもかかる可能性のある感染症です。

予防と早期発見に努めるとともに、偏見や差別のない社会を目指しましょう。

(参考資料：厚生労働省エイズ動向委員会「平成22年エイズ発生動向年報」)



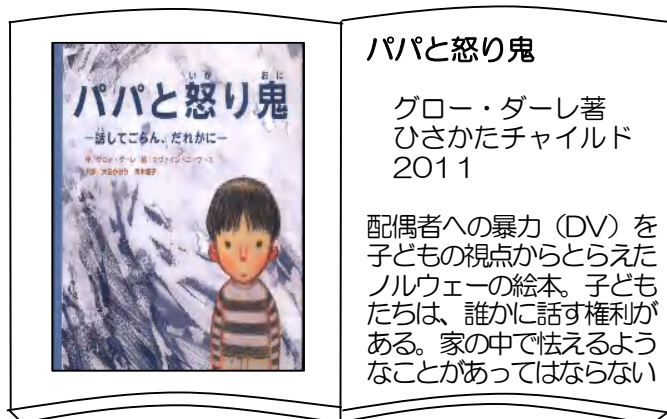
エイズ・性感染症の無料相談・検査の問合せ先

豊玉保健相談所 ☎ 03・3992・1188
東京都南新宿検査・相談室 ☎ 03・3377・0811

※ 区と東京都は、匿名で検査を行っています。

新着図書

*10、11月分(主なものを紹介します)

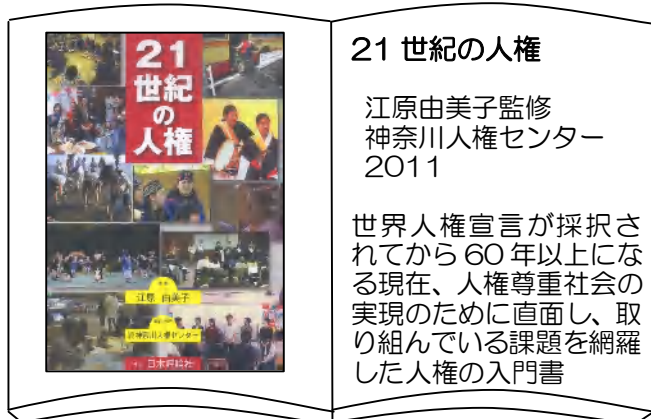


パパと怒り鬼

グロー・ダーレ著
ひさかたチャイルド
2011

配偶者への暴力(DV)を子どもの視点からとらえたノルウェーの絵本。子どもたちは、誰かに話す権利がある。家の中で怯えるようなことがあってはならない

児 30

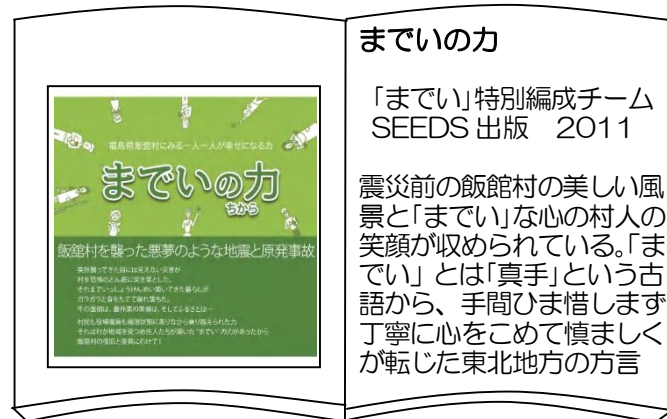


21世紀の人権

江原由美子監修
神奈川人権センター
2011

世界人権宣言が採択されてから60年以上になる現在、人権尊重社会の実現のために直面し、取り組んでいる課題を網羅した人権の入門書

316

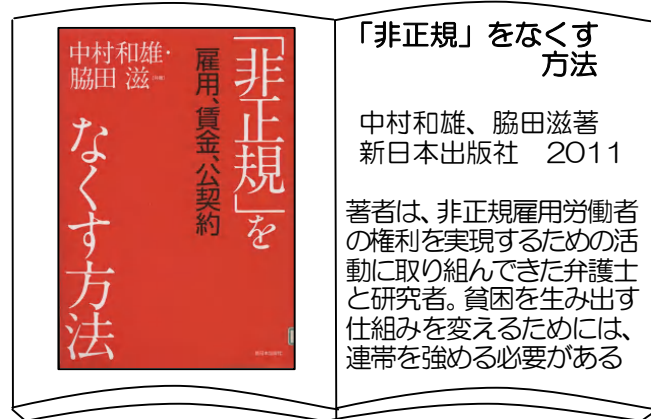


まていの力

「まてい」特別編成チーム
SEEDS 出版 2011

震災前の飯館村の美しい風景と「まてい」な心の村人の笑顔が収められている。「まてい」とは「真手」という古語から、手間ひま惜しまず丁寧な心をこめて慎ましくが転じた東北地方の方言

318

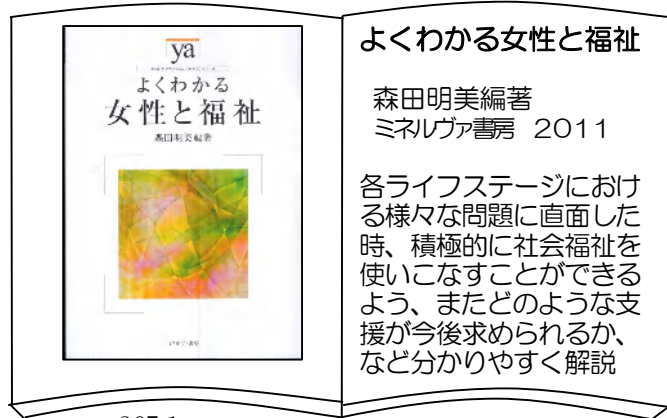


「非正規」をなくす方法

中村和雄、脇田滋著
新日本出版社 2011

著者は、非正規雇用労働者の権利を実現するための活動に取り組んできた弁護士と研究者。貧困を生み出す仕組みを変えるためには、連帯を強める必要がある

366.1

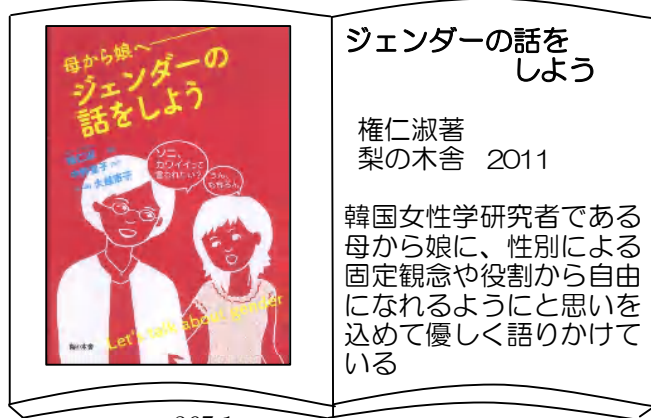


よくわかる女性と福祉

森田明美編著
ミネルヴァ書房 2011

各ライフステージにおける様々な問題に直面した時、積極的に社会福祉を使いこなすことができるよう、またどのような支援が今後求められるか、など分かりやすく解説

367.1

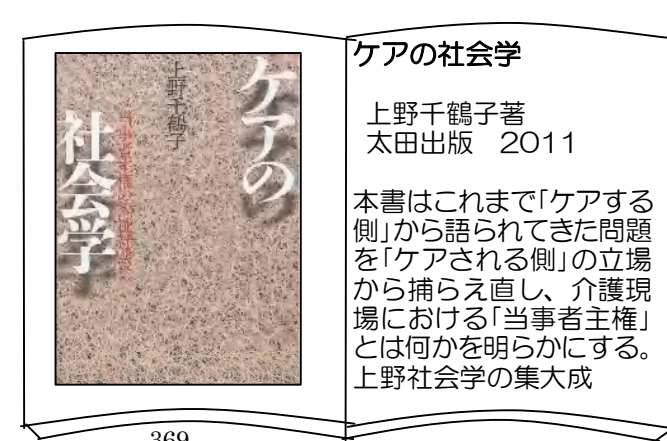


ジェンダーの話をしよう

権仁淑著
梨の木舎 2011

韓国女性学研究者である母から娘に、性別による固定観念や役割から自由になれるようにと思いを込めて優しく語りかけている

367.1

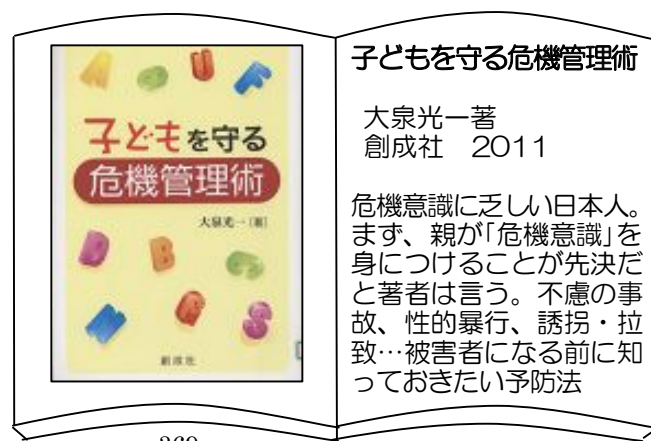


ケアの社会学

上野千鶴子著
太田出版 2011

本書はこれまで「ケアする側」から語られてきた問題を「ケアされる側」の立場から捕らえ直し、介護現場における「当事者主権」とは何かを明らかにする。上野社会学の集大成

369



子どもを守る危機管理術

大泉光一著
創成社 2011

危機意識に乏しい日本人。まず、親が「危機意識」を身につけることが先決だと著者は言う。不慮の事故、性的暴行、誘拐・拉致…被害者になる前に知っておきたい予防法

369

枠外の数字は分類番号

にゅーすBOX

認可保育所待機児童 微減

待機児童は今年4月、2万5556人だったが、昨年同月と比べると、わずかに減少していることが厚生労働省の調査でわかった。減少は4年ぶり。待機児童ゼロの都道府県は、昨年よりも2つ増えて、12県となった。東京の待機児童は、全体の約3割にあたる7855人で、沖縄2295人、埼玉974人と続く。

夫婦の産んだ子 2人割る

平成22年出生動向基本調査によると、夫婦が生涯に持つ子どもの平均数(完結出生児数)は、1.96人(平成17年は2.09人)と初めて2人を割った。1人の女性が生涯に産む子どもの数に当たる合計特殊出生率(1.39人)の低さは、晩産化と未婚者の増加が要因とされ、結婚した人の出生数は安定的に推移しているとされてきたが、今回の調査はそれを覆す結果となった。実際に予定する子どもの人数は2.07人、理想とする子どもの人数は2.42人でどちらも過去最低だった。理想とのギャップの理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最多だった。

がん検診率 低迷

平成22年の国民生活基礎調査によると、胃がん、肺がん、大腸がんの検診受信率はおおむね3割を下回る。厚生労働省は、「平成24年3月末までに受信率50%」の目標を掲げている。日本のがん検診の受信率は国際的に見ても低く、女性の受診率は、男性に比べてさらに低い。女性特有の子宮頸がん検診受信率は、英国78.4%、ニュージーランド75.5%で、日本は24.5%(平成19年)。

千代田区 係長以上4割女性へ

千代田区は、管理・監督職に女性職員を積極的に登用する。平成24年度からの5年間で係長級以上の職員に占める女性の比率を現在の17%から、40%に高める方針。内閣府によると、地方公務員における女性管理職の割合は、全国の市区平均で9.8%(平成22年)。

練馬区 災害に強い街を目指して

練馬区は、東日本大震災を受け、従来の枠組みでは対応できない様々な課題が顕在化したことから、従来の地域防災計画を修正し、新たな計画(素案)を策定した。計画では、①共助・公助の絆づくり、②避難拠点に関する事項、③区の危機管理対応力の強化、④情報対策、⑤災害時要援護者対策、⑥医療救護体制、⑦帰宅困難者対策、⑧復旧対策の実施を、主な項目として修正を行った。

主婦年金救済 年金法改正案決定

専業主婦の国民年金切り替え忘れ問題の救済策とする国民年金法改正案が閣議決定された。切り替え忘れに伴う保険料未納期間のうち、10年間分に限り今後3年間での追納を認め、未納保険料については年金を減額する。本来より多く支給している過払い年金分の返還は求めない。また無年金にならないよう、未納期間も受給資格期間(最低25年間)に算入する。

女性地方議員 過去最高

今春の統一地方選後、全国の地方議会に占める女性議員の割合は11.1%と過去最高になったことが、「市川房枝記念会女性と政治センター」の調べで分かった。同センターでは、4年ごとの統一地方選後に女性議員の進出状況を調査している。都道府県別に女性議員の割合を比較すると、東京24.1%、神奈川19.5%、埼玉19.1%と大都市圏は高く、長崎・島根5.8%、鹿児島5.9%など地方は低かった。

交際相手がない 過去最高

平成22年6月に実施した国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」の独身者調査で、18~34歳未婚者の男性61%、女性49%が異性の交際相手がないことが分かった。平成17年の前回調査から急増し過去最高となった。結婚する意思がある人の割合は男性86%、女性89%と高水準を維持している。同研究所の人口動向研究部長は「結婚や交際を望んでも、仕事が忙しかったり経済的な余裕がなかったりしてかなわず、諦めている人が多いのではないかと分析。

高齢者虐待 4年連続増加

平成22年度の高齢者に対する虐待件数が1万6764件と、調査開始以来4年連続増加した。家庭内虐待は1万6668件、介護施設内は96件。家庭内虐待の場合、被害者の少なくとも47%が認知症。77%は女性で、42%が80歳代。虐待者で最も多いのは息子が43%だった。

ノーベル平和賞、女性の権利向上貢献者に

今年のノーベル平和賞は、女性の権利向上を目指す「非暴力の闘い」に貢献したとして、女性3人に授与された。女性への平和賞授賞は、平成16年のケニアのマータイさん以来。3人は、アフリカ初の女性大統領エレン・サーリーフ・リベリア大統領、リベリアの平和活動家リーマ・ボウイー氏、イエメンの民主活動家タワックル・カルマン氏。

